

5 帝国主義の時代

1) 帝国主義の時代 (1870 年代/1880 年代- 1914 年)

1870 年代 世論の変化 小英国主義→帝国主義

1880 年代 アフリカの分割

なぜ「帝国主義の時代」か？

世界分割の時代

「多くのヨーロッパ諸国が、イギリスを先頭として、アフリカ及びアジアの広大な部分、ならびに太平洋及びそのほかにおける無数の島々を併合するか、もしくはこれに対する政治的支配圏を主張した」時 (J・A・ホブソン『帝国主義 その一研究』1902 年)

cf. 南アフリカ戦争 (1899-1902 年)

その背景

①第二次産業革命

交通手段の発達 自動車、飛行機、電車、蒸気船

通信手段の発展 電信機 電話機 無線電信 1851-海底ケーブルの敷設

+

運河の建設 スエズ運河 (1869 年) パナマ運河 (1913 年)

→世界の一体化 cf. ジュール・ベルヌ『80 日間世界一周』1873 年

→工業国間の競争

②大不況 (1873 年 ウィーン→欧米諸国に波及)

背景 工業国間の競争

世界の一体化

アメリカ、カナダ大陸横断鉄道

冷凍船

工業、農業への影響

→安価な原材料の供給地、市場、投資先

イギリス 工業→金融

アフリカ分割

1884-85 ベルリン西アフリカ会議

ビスマルクの目的

参加国 イギリス・ドイツ・オーストリア・ベルギー・デンマーク・スペイン・フランス・イタリア・
オランダ・ポルトガル・ロシア・スウェーデン・オスマン帝国・アメリカ
アフリカ人の不在 帝国主義の時代の開幕期を象徴する会議

- ① コンゴ、ニジェール川の自由航行
- ② コンゴ川流域から中央アフリカ東岸までの地域での自由貿易
- ③ 植民地獲得に関する原則
 - 「実効ある占領」→他の調印国への通告、承認
 - アフリカ分割のルール化
 - 交渉によるお互いの利害調整
 - 1898 ファショダ事件
 - 東アフリカ イギリス、ドイツ、フランス 交渉によって勢力範囲確定

→アフリカ分割急速に進行

cf. 「アフリカの分割（1891 年）」、「アフリカの分割（1914 年）」木谷勤『世界史リブレット 40 帝国主義と世界の一体化』山川出版社、1997 年、p. 37

ヨーロッパ協調の継続

非ヨーロッパ世界の役割→「再分割の時代」

帝国主義を支えたイデオロギー

「文明化の使命」（19 世紀中頃）

インドの植民地化

ヨーロッパとアジアの関係の変化

楽観的

「白人の重荷（責務）」

いざ君よ白人の重荷負いたまえかし

君らが手になるいと良きものを送り出し給え

その愛息を配流して

君らが捕虜の必要にかしずかんかな

いと重き職務に就きて

うち震えまた法知らぬものどもにかしずかんかな

君ら新たに捉えたるかの面暗きものどもは

おおそれ半ば悪魔にて半ば幼な子のものどもなり (R・キプリング 1899 年)

悲観的

人種関係の固定化 背景 社会ダーウィニズムの浸透 (集団内/集団間)

帝国主義の時代：西欧国際体制が世界に拡大

帝国主義的傾向の強化 人種主義

木谷勤『世界史リブレット 40 帝国主義と世界の一体化』山川出版社 1997 年

杉谷淑彦『文明の帝国 ―ジュール・ヴェルヌとフランス帝国主義文化』山川出版社、
1995 年